

平成26年度

仙北市

「全国学力・学習状況調査」

結果分析・改善

報告書

平成26年 11月

仙北市教育委員会

I 報告書の作成にあたって

本報告書の作成にあたっては、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成することに特に留意した。

報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」「算数・数学学習指導研究委員会」及び「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

II 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

【小学校調査】

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

- ・中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

5 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

国語、算数・数学はそれぞれ「主に知識に関する問題」と「主に活用に関する問題」を出題。

i) 主に知識に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

ii) 主に活用に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

6 調査の方式 悉皆調査

7 調査期日 平成26年4月22日（火）

8 4月22日に調査を実施した児童生徒数・学校数

小学校児童数	児童数 (人)				
	国語A	国語B	算数A	算数B	質問紙
全国(国公立)	1,093,806	1,093,582	1,093,799	1,093,581	1,093,806
全国(公立)	1,080,663	1,080,444	1,080,657	1,080,442	1,080,663
秋田県(公立)	7,838	7,836	7,838	7,837	7,837
仙北市教育委員会	188	188	188	188	188

中学校生徒数	生徒数 (人)				
	国語A	国語B	数学A	数学B	質問紙
全国(国公立)	1,059,584	1,059,784	1,059,966	1,060,010	1,060,010
全国(公立)	1,017,965	1,018,157	1,018,328	1,018,365	1,018,365
秋田県(公立)	8,487	8,486	8,483	8,487	8,487
仙北市教育委員会	218	218	218	218	218

調査実施校数	4月22日に調査を実施した小学校、 特別支援学校小学部	4月22日に調査を実施した中学校、 中等教育学校 特別支援学校中学部
全国(公立)	20,217校	9,742校
全国(国立)	75校	78校
全国(私立)	100校	353校
合計	20,532校	10,173校
秋田県(国公立)	220校	124校
仙北市教育委員会	7校	5校

Ⅲ 結果

- ※ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学の2教科のみであり、また、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではない。従って、本調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校等における教育活動の一側面にすぎないことに留意する必要がある。
- ※ 「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第2条に基づき、教科に関する調査結果の数値による公表は行わない。〈表2〉の階層区分と表現による公表としている。

1 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本調査における全国調査校（以下、全国）及び秋田県調査校（以下、秋田県）の平均正答率と仙北市調査校（以下、仙北市）の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学のそれぞれ「A：主として知識」及び「B：主として活用」の区分で比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分の視点から比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ①全国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、仙北市の小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学の学習状況は「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。
- ②全国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目で仙北市が上回っている。
- ③特に小学校6年国語、中学校3年数学において、「A：主として知識」よりも「B：主として活用」で、仙北市の平均正答率が全国の平均正答率を大きく上回っており、活用する力に成果が見られる。
- ④仙北市の平均正答率をみると、中学校3年数学「B：主として活用」が良好な状況である。

【課題】

- ①秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年の国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目で仙北市が-0.4～-5.4の幅で下回っている。
小学校6年国語「B：主として活用」、算数「B：主として活用」、中学校3年国語「B：主として活用」において、仙北市の平均正答率と秋田県の平均正答率との差が他の項目に比べて大きい傾向にある。
- ②小学校6年生4項目の正答率の平均、並びに中学校3年生4項目の正答率の平均を全国と仙北市で経年変化として比較した場合、〈グラフ1〉にあるように、全国との差として仙北市が上回っている部分がやや減少傾向にある。

〈表1〉：全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科・問題別）

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6年生	国語A:主として知識	全国(公立)	72.9%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	77.4%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	55.5%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	67.3%	概ね満足できる状況
	算数A:主として知識	全国(公立)	78.1%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	85.1%	概ね満足できる状況
算数B:主として活用	全国(公立)	58.2%	概ね満足できる状況	
	秋田県(公立)	66.2%	概ね満足できる状況	
中学校 3年生	国語A:主として知識	全国(公立)	79.4%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	84.4%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	51.0%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	55.8%	概ね満足できる状況
	数学A:主として知識	全国(公立)	67.4%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	73.0%	概ね満足できる状況
数学B:主として活用	全国(公立)	59.8%	概ね満足できる状況	
	秋田県(公立)	65.5%	概ね満足できる状況	

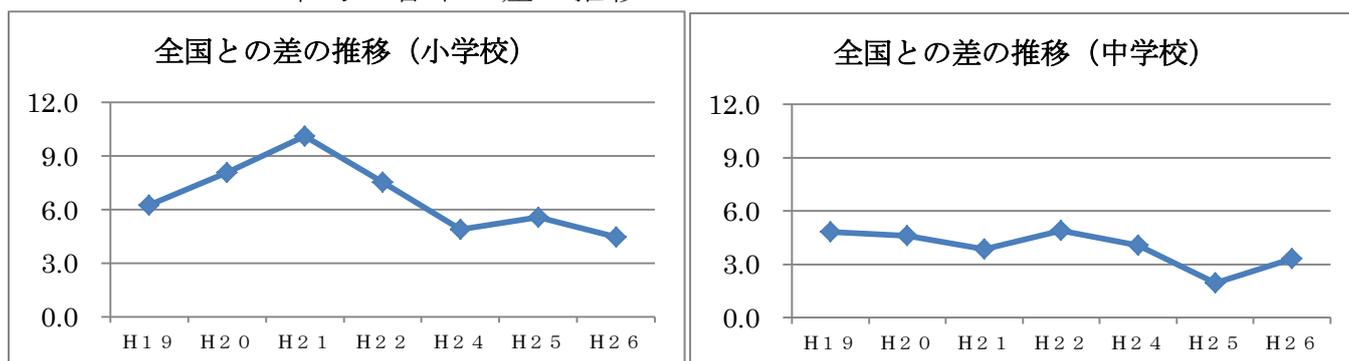
※〈表1〉の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、〈表2〉の表現にしたがって示した。

〈表2〉：〈表1〉の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+5%以下～-5%以上であるもの	概ね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が-6%以下であるもの	改善が必要な状況

※〈表2〉は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第3条（別表2）による。

〈グラフ1〉：国語A・B、算数・数学A・Bの平均による全国と仙北市との平均正答率の差の推移



(2) 設問分類・区分別集計結果から

本調査における全国及び秋田県の「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」別の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

①〈表3-(1)〉～〈表3-(8)〉にあるように、「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、全国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較してみると、小学校6年国語A・国語B、算数A・算数B、中学校3年国語A・国語B、数学A・数学Bの8項目において、「概ね満足できる状況」或いは「十分満足できる状況」である。

②同様に全国の平均正答率と仙北市の比較からは以下のことが言える。

ア) 「小学校6年国語B」では、「学習指導要領の領域」の4区分、「評価の観点」の5区分、「問題形式」の3区分の計12区分のうち、7区分が「十分満足できる状況」である。

イ) 「小学校6年算数A」では、8区分のうち、3区分が「十分満足できる状況」である。

ウ) 「小学校6年算数B」では、10区分のうち、3区分が「十分満足できる状況」である。

エ) 「中学校3年数学A」では、8区分のうち、1区分が「十分満足できる状況」である。

オ) 「中学校3年数学B」では、9区分のうち、2区分が「十分満足できる状況」である。

③仙北市の状況の中で小学校6年については以下のことが言える。

ア) 「国語」については、「B：主として活用」では「学習指導要領の領域」の「書くこと」「読むこと」が、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」が、「問題形式」の「短答式」「記述式」が良好な状況である。

イ) 「算数」については、「A：主として知識」では「学習指導要領の領域」の「量と測定」「数量関係」が、問題形式の「短答式」が良好な状況である。また、「B：主として活用」では、「学習指導要領の領域」の「図形」が、「評価の観点」の「数学的な考え方」が、「問題形式」の「記述式」が良好な状況である。

④仙北市の状況の中で中学校3年については以下のことが言える。

ア) 「国語」の全ての区分について、全国との比較において「概ね満足できる状況」である。

イ) 「数学」については、「A：主として知識」では「学習指導要領の領域」の「資料の活用」が、また、「B：主として活用」では、「学習指導要領の領域」の「関数」が、「問題形式」の「選択式」が良好な状況である。

【課題】

①秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から比較した場合、次のような課題がある。

ア) 小学校6年「国語」「A：主として知識」では「学習指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が、「評価の観点」の「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」が（A問題10視点のうちの6視点）、「B：主として活用」では「学習指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」が、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」が、「問題形式」の「記述式」が（B問題12視点のうちの6視点）、「改善が必要な状況」であり課題がある。

〈表 3 - (1)〉 : 「小学校 6 年国語 A」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 領導 域要 領	話すこと・聞くこと	1	79.3	72.4	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	書くこと	3	79.8	72.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	読むこと	2	73.7	68.5	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1 2	77.8	73.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	0	/	/	/	/
	話す・聞く能力	1	79.3	72.4	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	書く能力	3	79.8	72.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	読む能力	2	73.7	68.5	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	1 2	77.8	73.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 形 題 式	選択式	7	70.0	66.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	8	83.8	78.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0	/	/	/	/

〈表 3 - (2)〉 : 「小学校 6 年国語 B」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 領導 域要 領	話すこと・聞くこと	3	60.8	51.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	書くこと	4	52.8	34.4	改善が必要な状況	十分満足できる状況
	読むこと	4	70.1	57.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	77.3	69.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	2	52.8	34.4	改善が必要な状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	3	60.8	51.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	書く能力	4	52.8	34.4	改善が必要な状況	十分満足できる状況
	読む能力	4	70.1	57.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	1	77.3	69.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 形 題 式	選択式	3	70.1	62.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	5	78.2	67.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	2	52.8	34.4	改善が必要な状況	十分満足できる状況

〈表 3 - (3)〉 : 「小学校 6 算数 A」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 指 導 域 要 領	数と計算	8	87.8	81.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	3	82.0	74.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	図形	4	79.2	71.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	3	90.5	81.3	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評 価 観 の 点	算数への関心・意欲・態度	0	/	/	/	/
	数学的な考え方	0	/	/	/	/
	数量や図形についての技能	8	93.7	87.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	9	77.5	69.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	8	78.4	70.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	9	91.1	84.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0	/	/	/	/

〈表 3 - (4)〉 : 「小学校 6 算数 B」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 指 導 域 要 領	数と計算	8	69.6	61.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	5	63.5	56.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	1	75.0	65.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	5	65.5	56.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 観 の 点	算数への関心・意欲・態度	0	/	/	/	/
	数学的な考え方	6	57.9	47.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての技能	4	82.2	86.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	3	61.7	54.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 題 形 式	選択式	4	70.6	64.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	69.2	62.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	60.4	49.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

〈表 3 - (5)〉 : 「中学校 3 国語 A」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 領 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	4	77.7	72.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	6	87.8	83.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	5	86.3	82.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	84.2	78.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	4	77.7	72.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	6	87.8	83.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	5	86.3	82.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	17	84.2	78.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 形 式	選択式	20	87.0	83.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	12	80.1	73.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

〈表 3 - (6)〉 : 「中学校 3 年国語 B」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の指 領 導 域 要 領	話すこと・聞くこと	0				
	書くこと	3	48.8	41.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	8	54.2	49.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	63.0	56.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	3	48.8	41.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話す・聞く能力	0				
	書く能力	3	48.8	41.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	8	54.2	49.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	4	63.0	56.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問 形 式	選択式	6	59.4	55.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	0				
	記述式	3	48.8	41.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3 - (7)〉 : 「中学校 3 年数学 A」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
領域 の 指導 要 領	指導要領	1 2	81.8	77.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	1 2	71.3	66.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	関数	8	63.7	58.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	資料の活用	4	70.5	59.1	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
観 点 の 評 価	数学への関心・意欲・態度	0	/	/	/	/
	数学的な見方や考え方	0	/	/	/	/
	数学的な技能	1 5	74.1	68.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	2 1	72.2	66.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
形 題 式	選択式	1 8	69.6	64.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	1 8	76.5	70.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0	/	/	/	/

〈表 3 - (8)〉 : 「中学校 3 年数学 B」 の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答 率(公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
領域 の 指導 要 領	数と式	3	64.2	56.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	5	62.3	58.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	関数	5	71.0	64.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	資料の活用	2	61.4	55.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
観 点 の 評 価	数学への関心・意欲・態度	0	/	/	/	/
	数学的な見方や考え方	1 4	63.5	57.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数学的な技能	0	/	/	/	/
	数量・図形などについての知識・理解	1	92.8	87.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
形 題 式	選択式	3	86.3	83.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	6	69.4	63.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	6	51.1	44.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

①小学校6年「国語」A:主として知識について

ア) 「設問番号7」 「話合いの記録の仕方として適切なものを選択する」では、「話合いの観点に基づいて情報を関係付ける」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号4」 「新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する」では、「新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号6一」 「『～たり、…たり』という表現に直して書く」では、「複数の事柄を並列の関係で書く」に課題がある。他の設問と比較して、無回答率も高い。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号5」 「物語の一部に入る適切な人物の名前を書く」では、「物語の登場人物の相互関係を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

オ) 「設問番号2二」 「故事成語の使い方として適切なものを選択する（百聞は一見にしかず）」では、「故事成語の意味と使い方を理解する」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

- ◆ 漢字の読み書きは一定程度身につけていると判断できるが、故事成語・慣用句等の言語文化については改善すべき課題となっている。
- ◆ 言語による情報の収集、分析については、特に改善しなければならない課題となっている。

②小学校6年「国語」B:主として活用について

ア) 「設問番号2二」 「付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く」では、「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」「読むこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号 1 二」 「林さん⑤の質問の狙いとして適切なものを選択する」では、「質問の意図を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号 1 一」 「司会④の発言の内容をまとめて書く」では、「目的に応じて、話合いの観点を整理する」に課題がある。

この設問で「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号 1 三」 「大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く」では、「立場を明確にして、質問や意見を述べる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」「書くこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

- ◆ 特に「質問・発言」等の話合いについて、目的や状況に即した言語の活用、情報の処理については改善しなければならない課題がある。

③小学校6年「算数」「A:主として知識」について

ア) 「設問番号 2 (2)」 「示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80 cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ」では、「割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号 7」 「縦5 cm、横11 cm、高さ4 cmの直方体の面⑦になる四角形を選ぶ」では、「立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号 6」 「コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ」では、「作図に用いられている図形の約束や性質を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

- ◆ 式を立てたり計算したりということについては、一定程度の力が身につけているが、図形に関する内容については解決すべき課題がある。

④小学校6年「算数」**「B:主として活用」**について

ア) 「設問番号5(3)」 「妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く」では「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号4(1)」 「㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く」では「繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」「数量関係」、「評価の観点」では「数量や図形についての技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号2(2)」 「1目盛りを50m³として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く」では「最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「量と測定」「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

◆ 特に、自分の数学的思考を表現することに課題がある。

⑤中学校3年「国語」**「A:主として知識」**について

ア) 「設問番号8三ア」 「適切な語句を選択する(良い結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)」では、「語句の意味を理解し、分脈の中で適切に使う」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語に関する知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号8一1」 「漢字を書く(地域の人をショウタイする)」では、「文脈に即して漢字を正しく書く」に課題がある。他の設問と比較して無解答率も高い。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号5一」 「『動物』と『外界のもの』との組合せとして適切なものを選択する」では、「抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

◆ 歴史的仮名遣い、漢字の読み等の辞書的な語句の使い方については一定の成果があるが、文脈の中での語句の使い方、場面に適した語句の使い方等に課題がある。

⑥中学校3年「国語」**「B:主として活用」**について

ア) 「設問番号 1 一」 「標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する」では、「表現の技法について理解する」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質について」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択述式」に分類・区分される設問である。

⑦中学校3年「数学」**「A:主として知識」**について

ア) 「設問番号 5 (4)」 「円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ」では「底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号 10 (4)」 「反比例のグラフから表を選ぶ」では「反比例について、グラフと表を関連付けて理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「関数」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号 1 (3)」 「 -7 の絶対値を書く」では「絶対値の意味を理解している」に課題がある。他の設問と比較して、無回答率も高い。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号 11 (1)」 「変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ」では「一次関数の変化の割合の意味を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「関数」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

◆ 「数量や図形などの理解・知識」について課題がある。学習した「知識」の意味を考察することについての課題といえることができる。

⑧中学校3年「数学」**「B:主として活用」**について

ア) 「設問番号 4 (2)」 「 $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める」では「付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

(1) 概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、若干の課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向にあると言える。

特に「向上心」「地域への愛着」「学習に対する意欲・学習の有用感」「規範意識・礼儀・思いやり・他者意識」「基本的生活習慣・基本的学習習慣」に望ましい傾向があるといえる。

前年度と比較した場合、小学校6年生の「自己有用感」「読書の意欲」「地域への貢献」にやや下降傾向が見られるが、中学校3年生ではこれらの項目は下降傾向にはない。

(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答」の値が高い質問

小学校6年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、90%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

質問事項	仙北市児童の肯定的回答率
友だちとの約束を守っていますか	99.5%
家で学校の勉強をしていますか	96.8%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.8%
家の人（兄弟姉妹は除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	95.7%
人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか	95.3%
朝食を毎日食べていますか	95.2%
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	95.2%
算数の勉強は大切だと思いますか	95.2%
将来の夢や目標を持っていますか	94.7%
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	93.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか	93.6%
国語の勉強は大切だと思いますか	93.6%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.6%
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	92.6%
友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	92.5%
学校のきまりを守っていますか	92.5%

調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	92.0%
5年生までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	91.5%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.5%
家で、学校の授業の復習をしていますか	91.0%
5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	91.0%

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものは次の表のとおり。（県との割合との差は参考のために示した。）

質問事項	全国との差
	秋田県との差
家で、学校の授業の復習をしていますか	+37.0 +0.3
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	+19.3 -0.3
家で、学校の授業の予習をしていますか	+14.8 -4.8
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	+12.3 -6.4
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	+12.0 -3.7
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	+10.2 -1.3

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+3ポイント以上のものは次の表のとおり。

質問事項	秋田県との差
将来の夢や希望を持っていますか	+3.0

(3) 小学校6年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答」の値が低い質問

小学校6年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、75%未満の質問は、以下の表のとおりである。

質問事項	仙北市児童の肯定的回答率
新聞を読んでいますか	30.8%

地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	44.2%
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	50.0%
家で学校の授業の予習をしていますか	58.0%
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	58.5%
国語の勉強は好きですか	61.2%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	68.0%
読書は好きですか	69.1%
算数の勉強は好きですか	69.2%
地域や社会で起きている問題や出来事に興味がありますか	69.7%
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	73.4%
自分にはよいところがあると思いますか	73.9%

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイントを下回るものは次の表のとおり。（県との割合との差は参考のために示した。）

質問事項	全国との差
	秋田県との差
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	－4.4
	－6.3
読書は好きですか	－3.9
	－11.8

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイントを下回るものは次の表のとおり。

質問事項	秋田県との差
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	－11.9
読書は好きですか	－11.8
5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	－10.5
自分にはよいところがあると思いますか	－8.9
国語の勉強は好きですか	－6.7
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど、の学習活動に取り組んでいますか	－6.4
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	－6.3
算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	－6.0
国語の授業の内容はよく分かりますか	－6.0

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	－ 5. 2
5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	－ 5. 2
算数の勉強は好きですか	－ 5. 0
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	－ 5. 0
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	－ 4. 9
5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	－ 4. 8
家で、学校の授業の予習をしていますか	－ 4. 8
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	－ 4. 7
今住んでいる地域の行事に参加していますか	－ 4. 4
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	－ 3. 8
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	－ 3. 7
5年生までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	－ 3. 3
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか	－ 3. 2
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	－ 3. 1
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	－ 3. 1

- ◆ 概要に記した通り、小学校6年生において学習への関心・意欲・態度は高いと言える。話し合いにおいては相手の意見をよく聞こうとし、他者の考えと自分の考えを止揚しながら話し合いを進めていこうとする態度が認められる。しかしながら、ここでの学習への関心・意欲・態度は与えられるものが中心であるとも捉えられる。「家で、自分で計画を立てて勉強をしてい」る回答が全国と比べて極めて高いものではあるが、「新聞を読」んでいる率、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあ」る率、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど、の学習活動に取り組」んだ率等が低いことから、「情報」に対する意欲・関心、また、自発的に社会に関わっていく意欲・態度に課題があると考えられる。与えられた課題は解決するが、自ら課題を求める積極的な姿勢を育成していく必要があると言える。

(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答」の値が高い質問

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、90%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

質問事項	仙北市生徒の肯定的回答率
友達との約束を守っていますか	99.1%
学校の規則を守っていますか	98.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.2%
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	98.1%
人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか	97.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.7%
朝食を毎日食べていますか	96.8%
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	96.4%
国語の勉強は大切だと思いますか	96.3%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	96.3%
家で、学校の宿題をしていますか	95.9%
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	95.8%
1・2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	95.4%
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	94.1%
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	94.0%
数学ができるようになりたいと思いますか	94.0%
調査問題の解答時間は十分でしたか	94.0%
1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	91.3%
数学の勉強は大切だと思いますか	91.2%
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	90.8%
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	90.4%

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものは次の表のとおり。（県との割合との差は参考のために示した。）

質問事項	全国との差
	秋田県との差
家で、学校の授業の復習をしていますか	+31.3
	-2.7
今住んでいる地域の行事に参加していますか	+28.5
	+21.3

国語の勉強は好きですか	+25.3
	+12.2
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	+24.0
	+8.0
1・2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	+23.9
	-0.2
1・2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	+23.3
	-3.7
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	+23.2
	+2.1
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	+20.6
	+7.1
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	+20.2
	+5.4
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	+19.7
	+1.6
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	+19.2
	+5.2
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	+18.8
	+4.1
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	+16.8
	+4.1
1・2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	+15.4
	-3.4
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	+15.3
	-11.5
国語の授業の内容はよく分かりますか	+14.2
	+4.2
地域や社会で行っている問題や出来事に関心がありますか	+14.1
	+2.2
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	+14.0
	+4.8
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	+13.8
	+5.8
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいますか	+13.7
	+2.0
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	+12.3
	+3.5
自分にはよいところがあると思いますか	+10.9
	+1.8
読書は好きですか	+10.9
	+0.8
将来の夢や目標を持っていますか	+10.7
	+2.1
1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	+10.2
	-0.9

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+3ポイント以上のものは次の表のとおり。

質問事項	秋田県との差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	+21.3
国語の勉強は好きですか	+12.2
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	+8.0
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	+7.1
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	+5.8
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	+5.4
家の人（兄弟姉妹は除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	+5.2
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	+5.2
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	+4.8
家の人（兄弟姉妹は除く）と学校での出来事について話をしますか	+4.6
国語の授業の内容はよく分かりますか	+4.2
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間での話し合う活動をよく行っていたと思いますか	+4.1
数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	+4.0
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	+3.5
数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	+3.2
数学の勉強は大切だと思いますか	+3.1

〔5〕中学校3年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答」の値が低い質問

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の占める割合を合計した割合）が、75%未満の質問は、以下の表のとおりである。

質問事項	仙北市生徒の肯定的回答率
新聞を読んでいますか	28.0%
家で、学校の授業の予習をしていますか	32.6%
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	47.8%
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	49.5%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	51.8%
数学の勉強は好きですか	57.8%
1・2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	61.9%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	68.8%

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	69.3%
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	69.7%
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	70.1%
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	70.6%
今住んでいる地域の行事に参加していますか	72.0%
友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか	73.8%
調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	73.9%
数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	74.3%

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が-3ポイントを下回るものは次の表のとおり。（県との割合との差は参考のために示した。）

質問事項	全国との差
	秋田県との差
調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	-3.8
	+0.5

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が-3ポイント以下を下回るものは次の表のとおり。

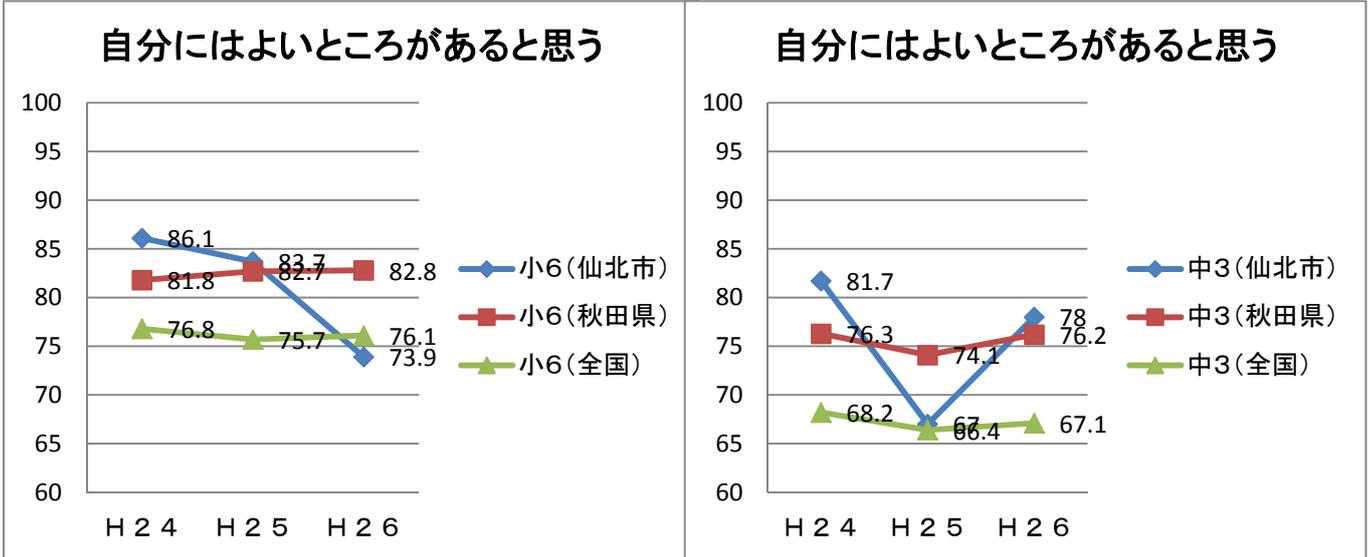
質問事項	秋田県との差
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	-11.5
家で学校の予習をしていますか	-11.0
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	-4.2
1・2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	-3.7
1・2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	-3.4

- ◆ 中学校3年生については、学習への意欲・関心・態度は小学6年生と同様に高いものとなっている。また、規範意識も高く、よりよい自分を求めて毎日进行している姿が質問紙の回答から捉えられる。しかしながら、「新聞を読む」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」等の社会と積極的に関わろうとする意欲についての課題は大きくなっている。地域行事への参加については秋田県の中学生の中では高い意欲を示すものの、地域の中で一定の役割を担っていくようなより深い関わり方まで指向する姿勢が、今後の仙北市の中学生には求められる。

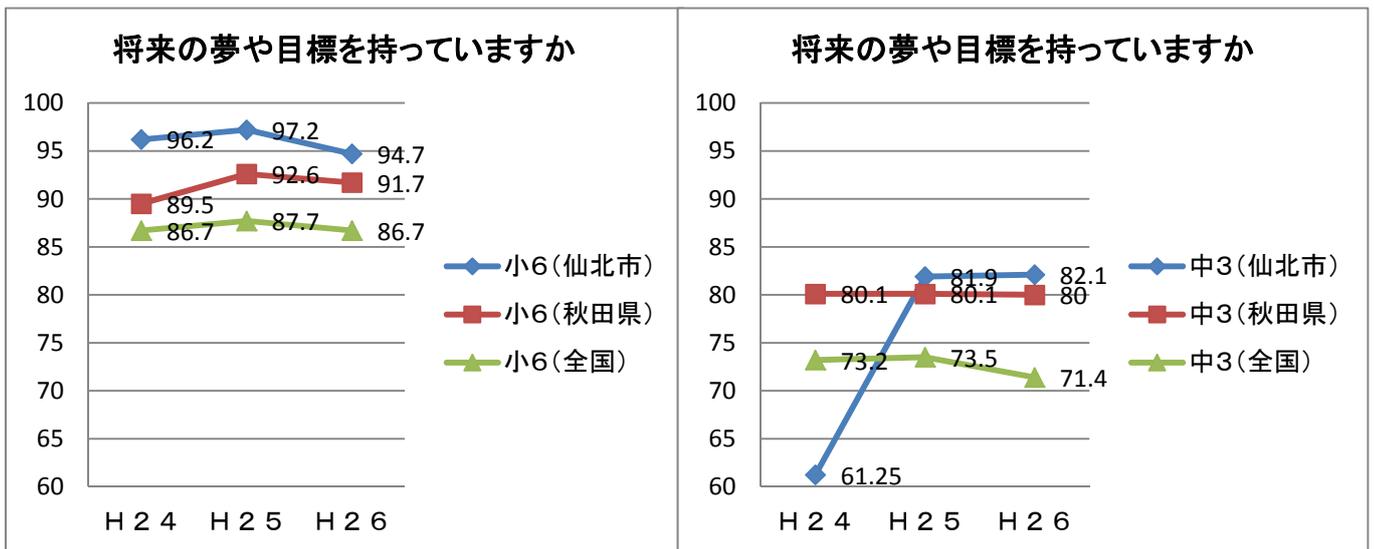
(6) 過去3年間の経年変化

「自己有用感」「学習への関心・意欲」「地域・家庭との連携」にかかわる内容について、直近3年間の経年変化を下に記す。

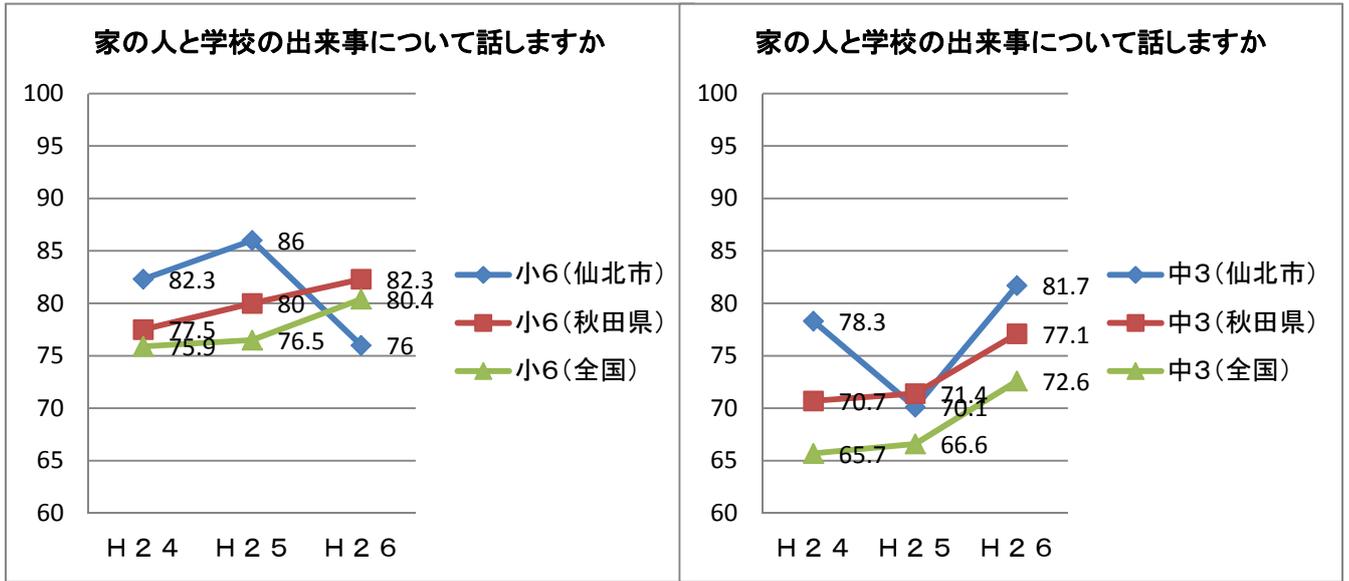
○ 自分には、よいところがあると思いますか



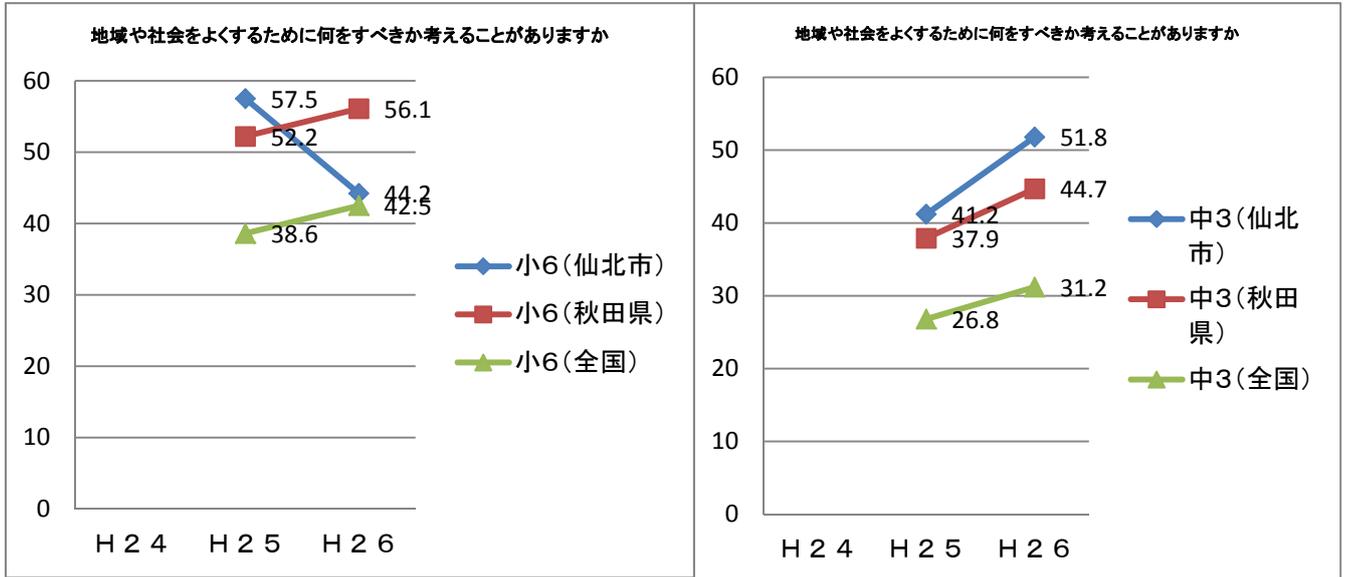
○ 将来の夢や目標を持っていますか



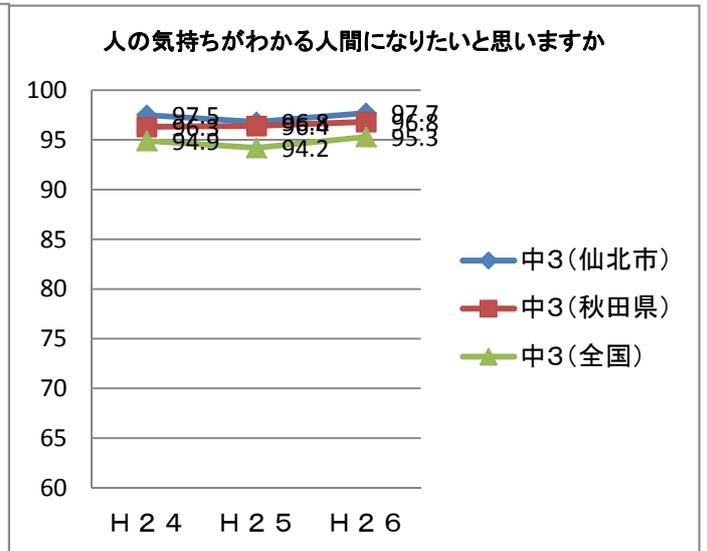
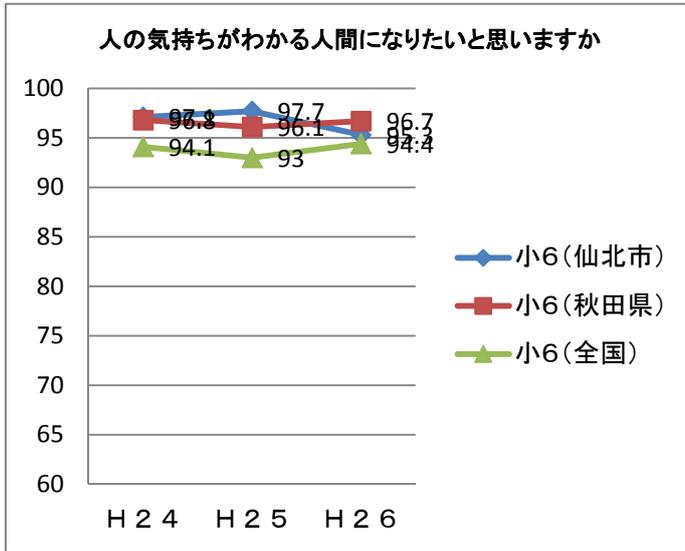
○ 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか



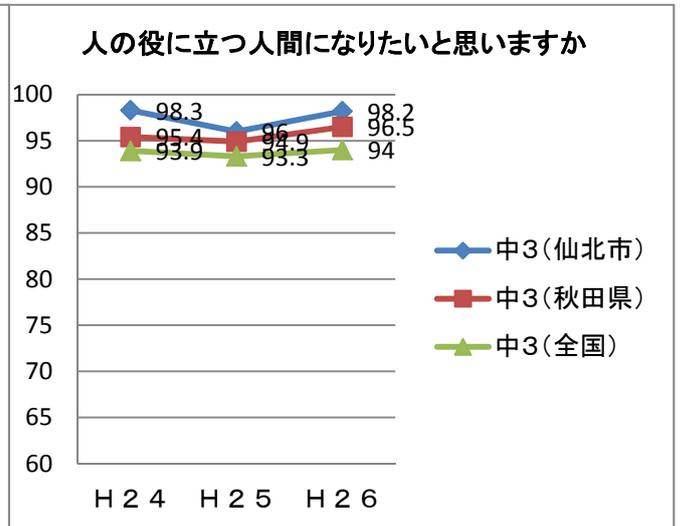
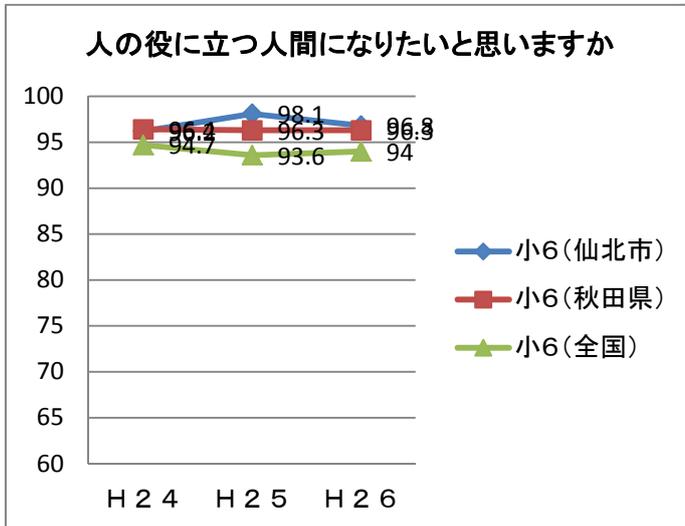
○ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか



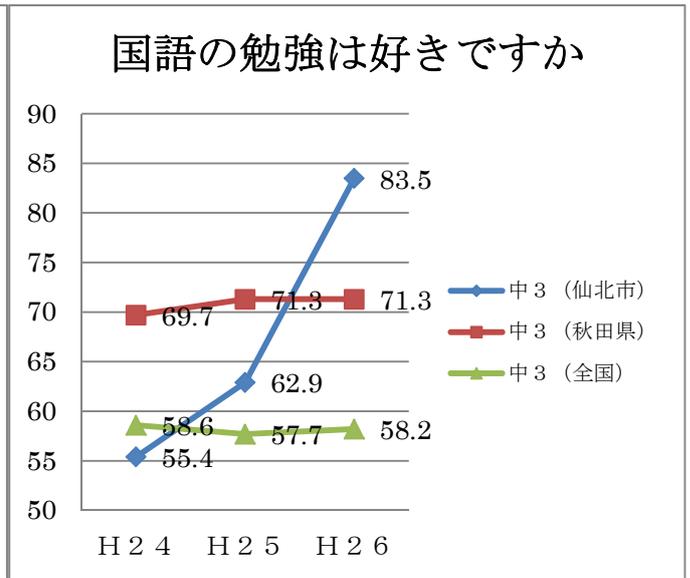
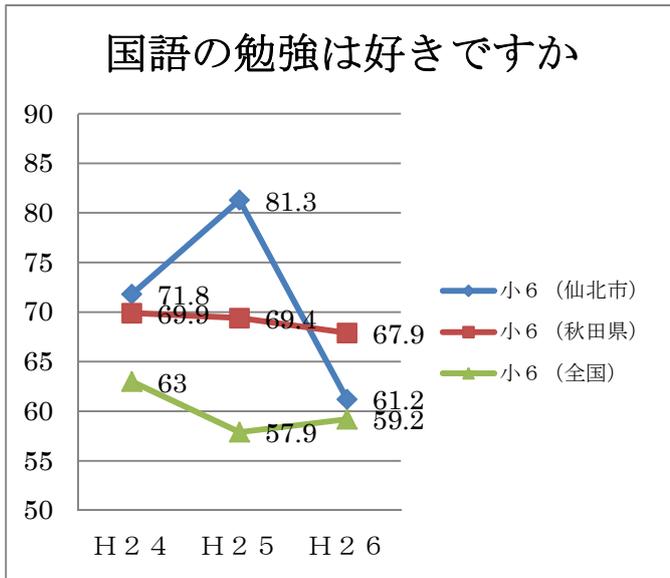
○ 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか



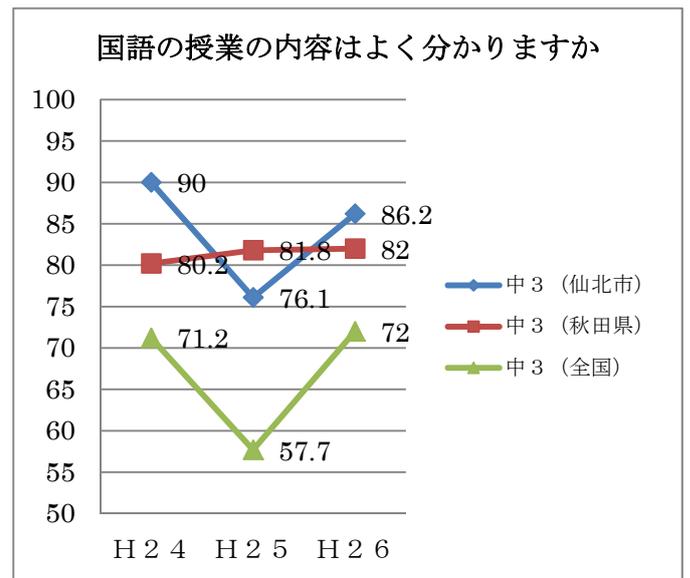
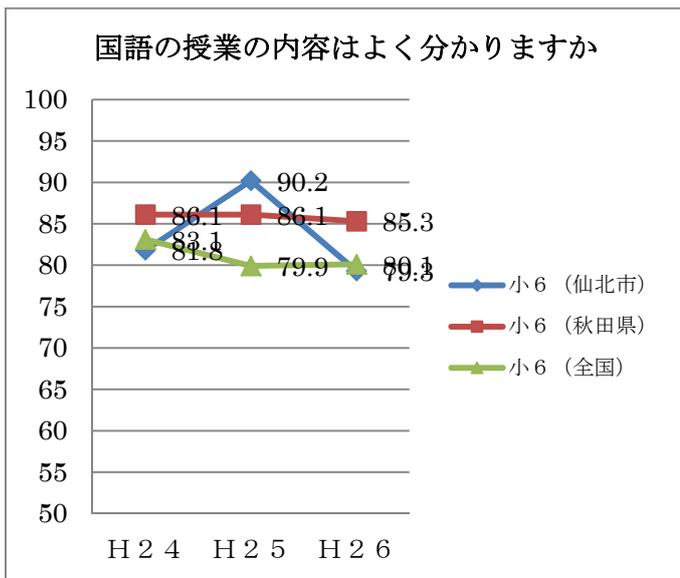
○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



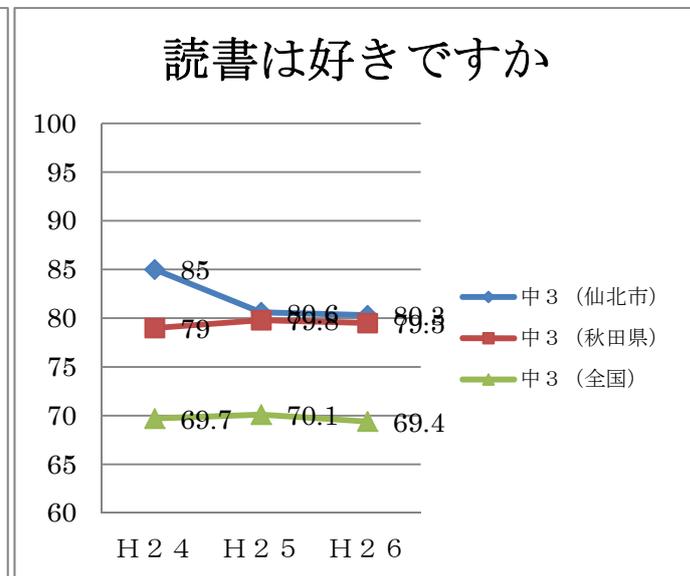
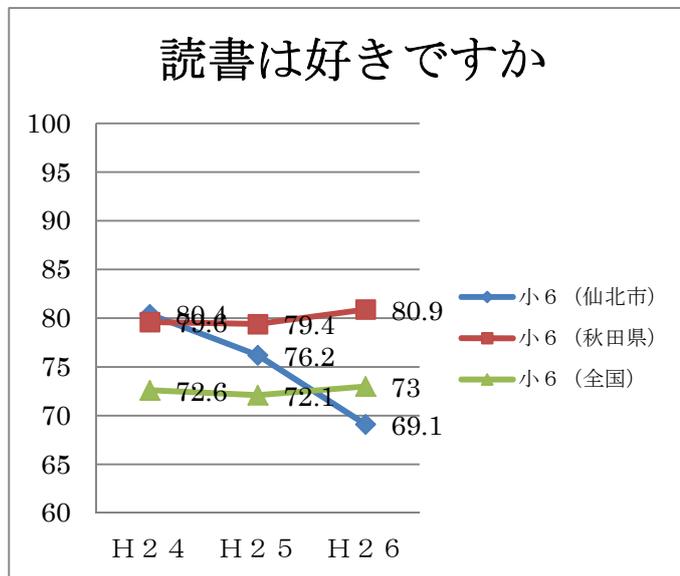
○ 国語の勉強は好きですか



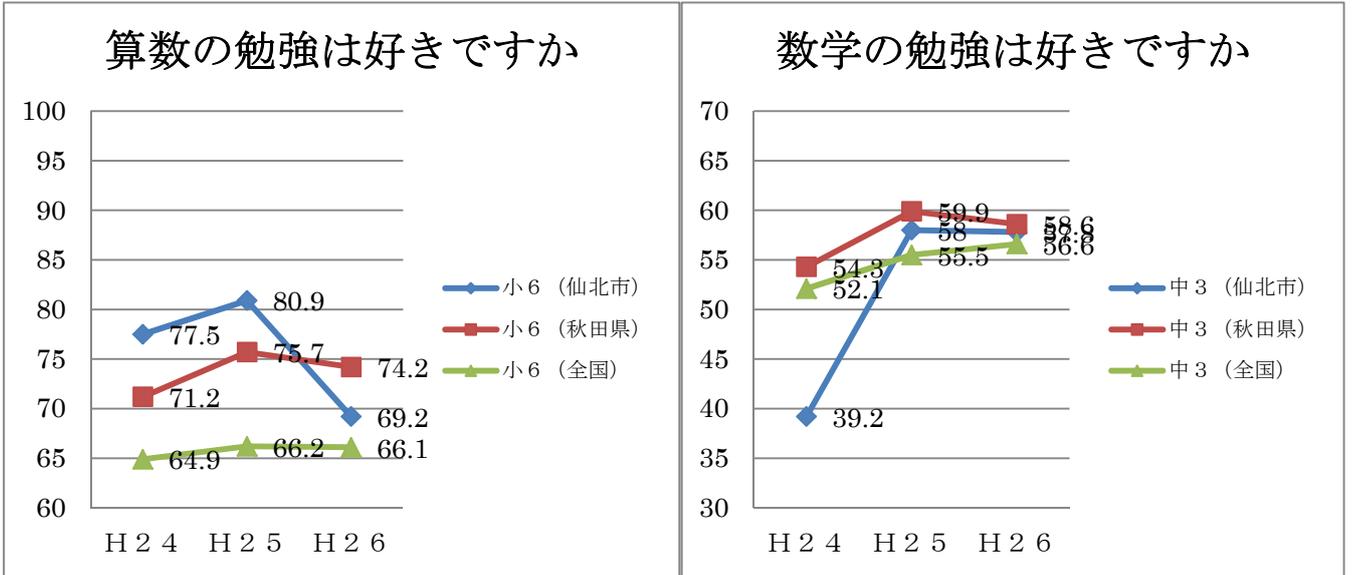
○ 国語の授業の内容はよく分かりますか



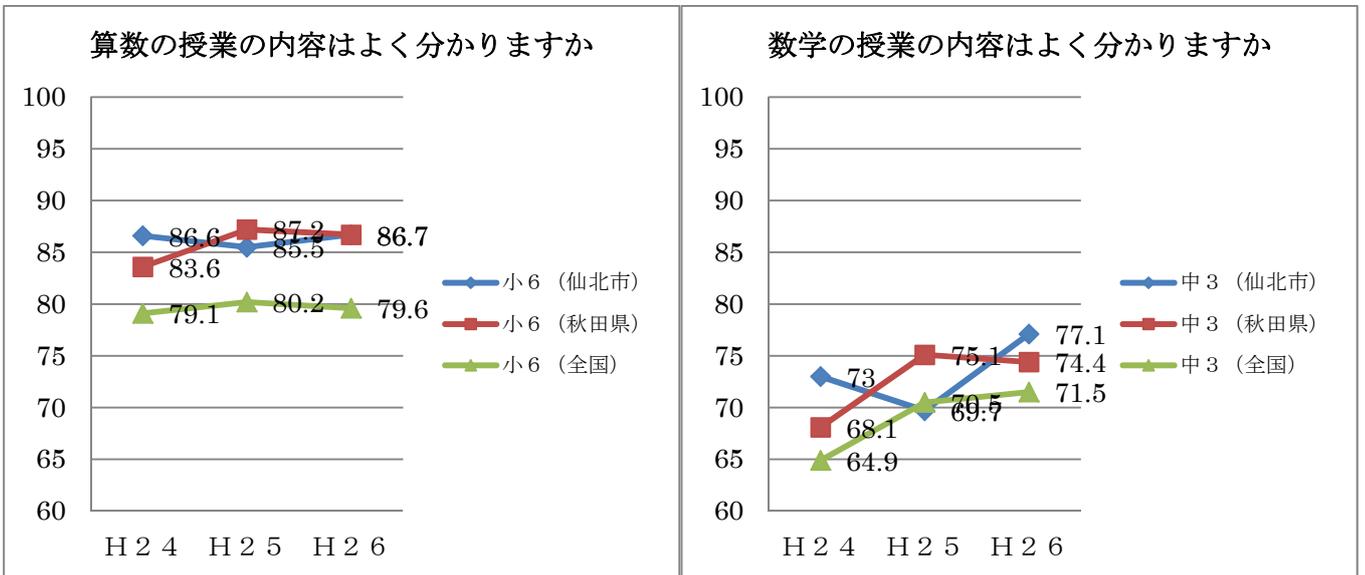
○ 読書は好きですか



○ 算数・数学の勉強は好きですか



○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



IV 改善の方法

1 全体的な取組として

本委員会では、仙北市全体の状況を踏まえて、一層の確かな学力の向上と授業改善の方向性について、現在仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策をもとに意見交換を行った。

先に、教科に関する本調査の結果で、仙北市の課題として捉えられ改善のために検討の余地があるもののうちでも特徴的なものを列挙したが、その設問を通して見たとき、仙北市児童生徒の課題は次のように集約することができる。国語に関しては、漢字の読み書きや旧仮名遣いの読み等の、言語の辞書的な解釈は一定程度身につけていると言える。しかし、故事成語を文章の中で活用したり発言者や質問者の意図を捉えてまとめたりする、故事成語を場面や状況にふさわしく用いる等の、個々人が個々の場面で言語を行使することには課題があると言える。児童生徒の算数・数学に関しては、「図形」に関わること、また、学習した「知識」が持っている意味を考察し、既習の「知識」を根拠をもって活用できるようにすることに課題があると言える。

また、平成25年度には、本市の課題が活用を支える「知識（基礎的、基本的な事項）の確実な習得、定着」であることを明らかにしたところであったが、加えて、音声言語では一定の説明ができるが文字言語での説明ができない（話せるがまとまった文章として表現できない）という本市の生徒の実態があり、「知識や情報を整理し関係性を明らかにしながら記述することによって論理的思考を育む学習過程」が重視されなければならない。

これらの現状を踏まえ、1 授業改善については6つの視点から、2 全校体制の取組については3つの視点から、さらに3 家庭や地域と連携した取組についての視点から、今後の仙北市立各学校が現状を改善していくために共通理解の上で共通実践するべき方策を以下に示す。

1 授業改善の視点から

(1) 育てたい力を明確にした授業構築

1 単位時間の授業を、日常生活、社会生活での課題解決のための演習と捉え、課題解決のための論理的思考過程を体験、習熟するための時間とする。そのためには、学習活動の中で、自分が現在、何のために、何ををしていて、それが自分との関係性において何に結び付いているのかを児童生徒自身がはっきりと捉えていなければならない。また、学習主体は児童生徒であるということ、児童生徒の持つ力をさらに伸ばすということを常に確認し続けるために、教師は授業を「コーディネートする」という意識をもつことが必要である。

育てたい力を明確にした授業を構築するための10のステップを以下に示す。

- ① 児童生徒の実態（ついている力、つけたい力）を正確に把握する。実態把握は、学年のスタート時、単元のスタート時、本時のスタート時と、常時行い確認を繰り返す。
- ② 年間指導計画の内容を精選・整理し、単元を9年間を見通して系統的に配置していくとともに、鍛えたいところ・能力を重点化し重複して指導する。
- ③ 単元を構想するには、単元のねらいを達成した児童生徒の姿をまず考え、その児童生徒の姿が実現されるように「導入」から「単元のまとめ」まで整合性のとれた単元を構築する。
- ④ 単元の計画がわかる教室掲示をしたりシートを配ったりして、本時が単元の中のどこの過程なのかを児童生徒が分かるようにする。

- ⑤ 本時の授業を構想するには、本時のねらいを達成した児童生徒の具体的な姿を明確に思い描き、その児童生徒の姿が実現されている本時の「まとめ」からそこに至る「課題・ねらい」まで整合性のとれた授業を構築する。
- ⑥ 本時の授業の流れ（構想）のしっかりと具体的なイメージを持った上で、児童生徒に学習活動に取り組ませる
- ⑦ 本時の授業にあたり、自分たちが何のために本時の学習を進めるのかを児童生徒が理解するための「めあて」の提示と、その「めあて」に対する到達度の児童生徒の自覚のための振り返りを徹底し、次時の学習へとつなげる意欲を持たせる。
- ⑧ 「ねらい」「めあて」から「活動」「まとめ」の整合性を図るにあたっては、算数・数学科で活用している「授業プランシート」を他教科でも参考にし、工夫・活用する。
- ⑨ 「めあて」「まとめ」「振り返り」等の表示は学校内で統一し、共通実践事項として位置付ける。
- ⑩ 本時の授業の流れ（学習過程）が児童生徒にわかるように掲示・配付するなどして、今、どの過程の活動をしているのかを児童生徒が明確に捉えられるようにする。

（2）児童生徒の学習意欲を高めるために

児童生徒が確実に学力を身に付けるためには、教師待ちではない自発的な学習を進めることが必要である。また、自ら考えることを大切にする学習、さらに学習課題についてグループで話し合ったり学級全体で意見を交換したり知る探究型の学習が大きな役割を果たしている。これらの学習、ならびに充実した家庭学習を支えているのは児童生徒の高い学習意欲に他ならない。

児童生徒の学習意欲を高める方策を以下に示す。

学習活動中の自己有用感や学習した内容が「わかった」という達成感を学習意欲につなげる。

- 学習課題を児童生徒が作る授業を工夫する。
- 授業のめあてを明確にし、ねらいに沿った振り返りを文章で記述させることで、何がどのように「わかった」のかという実感を持たせる。
- 児童生徒の振り返り（自己評価）が次時に活かされる授業づくりを工夫する。
- 児童生徒同士の関わり合いが学習意欲を高める重要な要素となっているので、児童が考え合い、話し合い、学び合う機会を多く取り入れる。
- お互いに考えを交流する中で、自分の考え（失敗経験、悩みも含めて）が活かされているという実感や、みんなで思考を創り上げているという喜びが感じられる、あたたかい雰囲気にも包まれた授業をつくる。
- 児童生徒の学習ノート（複写等）を学習例として校内や学級内に掲示し、学習への意欲を喚起する。
- 練習問題、評価問題までを1単位時間内に収め、授業に完結性を持たせる。
- 問題や課題提示の工夫と、評価問題で自力解決できるように学び合い・深め合いの活動を大事にする。
- 学校図書館、公立図書館を積極的に活用する。

学習した内容が活用できたことによる達成感を学習意欲につなげる。

- 児童生徒の課題意識を高めるために、単元、本時への導入には日常生活、社会生活の体験が活かされるように工夫する。

- 学習した内容が児童生徒個々の生活を想起しやすい資料の活用を図り、学習で得た知識が日常生活で活用される機会をつくったり示したりする。
- 生徒が並行読書に主体的に取り組むようにし、文章を比較しながら読む、批評的に読むという姿勢を育てる。そのための並行読書を積極的に取り入れた単元構成を工夫する。
- 活用できる既習事項を本時の学習や日常生活の中で気づいて使える児童を育てるために、既習事項を使えそうだという見通しを持たせる手立てを講じる。
- 学習した内容が日常生活の場に生かされていることの実感を、児童生徒なりの学習の目的・必要感に結びつける。

(3) 思考力・判断力・表現力等の育成に向けた言語活動の充実

思考力・判断力・表現力は、基礎的・基本的な知識・技能を「活用」して課題解決する際に必要とされる能力である。ここで、思考と判断と表現はそれぞれ独自の活動であり、思考力と判断力、表現力とは相互に関連しながらも、それぞれは別の能力であることを再確認して、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた言語活動の充実を期すための方策を次に示す。

- 授業での言語活動を日常化し、日常生活での言語活動の必要感と結び付ける。
- 「内言（思考の道具として機能する言語）」と「外言（他者とのコミュニケーションの道具として機能する言語）」の特性を生かし、個人→小グループ→全体→個人という学習過程の中で、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 根拠に裏付けられた思考・判断・表現を心掛けさせる。
- 「考える」、「話し合う、文章に書く、伝える」という場を、それぞれの機能に応じて設定する。
- 言語活動の適切性を検証し、単元を貫く言語活動の開発・工夫を進める。
- 話型や「ことばのたね」を教室に掲示し、伝え合いや発言を充実させる。
- ハンドサインを活用し、思考し意思を表示する機会を多く取り入れる。
- 自分の考えと友達の考えをつなぐ活動を多く取り入れる。
- つなぐ言葉（「はじめに、次に、だから」等の論理性を表す接続語）を身に付けさせる。その際、学年の発達段階によって、各教科の特性を踏まえた上で、各教科で使う言葉を大切にす。
- 音声言語と文字言語をバランスよく鍛える。
- 全員が表現するところまで至るような必然性のある経験の場を設定する。
- 他者説明を取り入れる。
- 考える過程をしっかりと書かせる。
- ペアやグループなど学習形態を工夫し、学び合い、教え合い、説明し合う活動を取り入れる。
- 教育活動全体を通じて、話し合いにおける司会者を計画的・系統的に育成する。
- 話し合い活動を多く取り入れるのみならず、視点を明確にした話し合い活動をさせる。聞き手については話し手の意図を理解した聞き手となるように、話し手については聞き手の反応から考えを深められるように指導する。

(4) 児童・生徒の「問い」を引き出し、その「問い」を生かした学習活動

人が「問い」を抱くとき、その基となるものの多くは、「驚き」であり、或いは「感動」である。そして、驚きや感動等の心の大きな動きは対象との出会いの印象によって大きく左右される。

“「問い」を発する子ども”を育成する取組を、読解力向上の取組と言語活動の充実との関連を図り、

「確かな学力」「生きる力」を身に付けた自立した社会人の育成へとつなげていくことが求められている。児童・生徒の「問い」を引き出し、その「問い」を生かした学習活動を構築するための方策を以下に示す。

- 「問い」の基となる「印象に残った」場面、描写、表現、論述との出会わせ方を工夫し、その「印象」から「問い」を引き出す。
- 児童生徒のちょっとした困り感、つまずき、迷い、驚きから引き出した「はてな」を「めあて」に生かし、これまでの経験や既習内容を活用して解決方法を考える学習活動を展開する。
- 児童生徒が誤答と判断したものを学習材とし、その思考過程を考察することから「問い」を引き出し、誤答を正答に至るための重要な過程として位置付けた授業を展開する。
- 児童生徒の生活体験に結び付けた予想や問いを大事にし、「つぶやき」を生かした学習課題を設定する授業をできるだけ取り入れる。

(5) 基礎・基本の定着と個に応じた指導の一層の充実

基礎・基本の定着と個に応じた指導の一層の充実を期して、その方策を以下に示す。

- 児童生徒個々の弱点・課題を各教師が確実に把握し、児童生徒と共通理解する。
- ドリルタイム等を設定し、計画的に活用する。細く長く継続する。ポイントを絞り、重点指導を繰り返す。
- 基礎・基本の定着度合いを確認するための小チェックテストを定期的に(週1回、月1回)行い、その結果を児童生徒の称揚の材料にする。
- 児童生徒に勉強・学習の仕方、学び方を身に付けさせる。学習ノート作成、活用の仕方、実物や複写で紹介する。
- 授業では、TT(少人数、習熟度も含む)を多く取り入れる。
- 生徒同士で教え合う、学び合うことで、考えを確かなものにする。
- 単元指導計画を工夫し、まとめ(基礎・基本を定着する時間)を設定する。
- 前時の授業や前の学年の内容(既習事項)を授業の中で振り返る場面をつくる。
- ゴールをコンパクトにし、みんなが、みんなができるようになる授業づくりをする。

(6) その他

- 全国学力・学習状況調査問題と今求められている学力の関係を分析・考察し、調査結果から明らかになった課題の解決を重点の一つとして、授業を構成する。
- 使えるツール(算数では数直線、線分図、面積図等)を多く持たせ、どの場面ではどれを使えばよいかを判断できるように訓練する。各学年段階を追ってツールが出てくるので、それを踏まえて学年に応じた指導が必要である。
- 学習の中で、まとめにつなげるためのちょっと質の違った問題を取り入れる。
- 学習ノートを「忘れたら見ることが出来るヒント集」として活用できるようにする。
- 本時の授業で行った学習と明日の学習のつながり、連続性を明確にするような、橋渡しをする言葉を児童に投げかける。その橋渡しが、家庭学習や音読等への意欲につながっている。

2 全校体制の取組の視点から

(1) 研修・研究の在り方等について

研修・研究に関しては全校的な共同研究体制の構築とその活用が肝要である。「共同」については、学年・教科、また、校種等の「壁」が存するという声も聞こえるが、そこにあるのは「違い」や「個性」、「特徴」であり、いわゆる「壁」は存在しない。「共同研究」を念頭に置きつつ、研修・研究の在り方についての方策を以下に示す。

- 現在、各学校の実態に応じて体制づくりや研究計画、「確かな学力向上推進計画書」等が作成されている。作成されたものは、常に見直し、改善を図っていく。
- 全職員の共通理解のもと、研究計画が立てられ推進されている。今後、各学級・各教科の取組の情報交換を定期的短期周期で行い、検証・改善していく。
- 授業研究会を充実させていくことで、全体研修をさらに充実させていく。
- 指導案作成・検討、研究授業演示・参観、授業研究会、授業研究の成果の反映までの全過程が共同研究であることを常に確認する。
- 全国学力・学習状況調査問題と今求められている学力の関係を明らかにし、その学力向上に向けて全校で取り組む組織体制づくりをする。中学校は教科担任の枠を越えて全校で取り組むべき問題であることを各教師が認識する。また、組織研究・共同研究であることを全教師が認識する。

(2) 各校の重点的な取組について

仙北市立各学校で重点的に取り組んでいる方策は以下の通りである。

- 県の「教育の指針」示された方向性をよく理解し、その方針に沿った授業になるよう、授業改善を行っていく。
- 秋田県の重点項目を学校の共通実践事項として実践につなげる。自校の研究の視点と秋田県の研究の視点を比較検討し、研究を推進する。
- 各学級、各教科で授業の流れ（構成）を統一する。1単位時間内での完結性のある授業を構築する。

(3) 小・中の連携について（9年間の系統性・連続性）

- 仙北市の教育研究大会等の機会を利用して、小中の各教師が、お互いの授業を見合い、協議・研修する機会を増やす。特に、中学校は、小学校での丁寧かつ細やかな授業を参観し、意識改革を図っていく必要がある。
- 保健体育で中学校の教員が小学校で授業を行うなどの小中連携をさらに推進していく。
- 小中学校ともスマートフォンやゲームのやり過ぎによる弊害が共通の悩みである。同じ校区内で、小中ともノー「スマホ・ゲーム」デーを設定し、その呼びかけを中学校生徒会執行部から小学校児童会に向けて行う。
- 校務分掌ごとの小中の連携を密にし、児童生徒の実態等の具体例を通しながら研修を進める。
- 全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査等の学力調査結果を小中が共有し、9年間の系統的な指導の成果と課題を明らかにする。
- 仙北市教科書センターを利用したり校種の違う教科書を購入したりして、他校種の教材研究や既習内容の確認をすることによって、義務教育9年間の系統性を確認する。

3 家庭や地域と連携した取組について

連携のための礎は相互理解である。仙北市、市教育委員会、各学校からの発信が家庭や地域と連携した取組を支えることは言を俟たない。家庭や地域と連携した取組の方策を以下に示す。

- 地域・家庭に対し、学校や教師の営みを発信するのみならず、秋田県「ふるさと学習」の実践の視点からも児童生徒が地域で活動・活躍する機会を多く設定する。児童生徒による地域貢献活動を更に推進する。
- 9年間を見通した「学びの手引き」を作成し、小中学校で児童生徒・家庭に配布する。家庭や地域に小中学校の営みが9年間の系統性を重視していること、小中学校が隔てなく児童生徒と共に活動していることを理解していただくようにする。
- 「学びの手引き」と同様に、「早寝・早起き・朝ご飯」等、家庭が取組の主体となることに、各家庭がしっかり取り組めるように、パンフレット等を作成し、啓発する。
- 子どもへの関わり方について、また、学校教育活動についての啓発活動を促進する。

2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策

学年・教科・区分について各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるものについては、次の資料の活用を充実させる必要がある。

- 「平成26年度学校改善支援プラン」〈平成26年3月 秋田県検証改善委員会〉
- 「平成26年度 全国学力・学習状況調査【小学校国語】報告書」
- 「平成26年度 全国学力・学習状況調査【小学校算数】報告書」
- 「平成26年度 全国学力・学習状況調査【中学校国語】報告書」
- 「平成26年度 全国学力・学習状況調査【中学校数学】報告書」
- 「平成26年度 全国学力・学習状況調査【質問紙調査】報告書」
〈平成26年8月 文部科学省 国立教育政策研究所〉
- 「平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
【小学校国語・算数】
【中学校国語・数学】
〈平成26年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～」
【小学校編】 〈平成24年9月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
【中学校編】 〈平成24年9月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～」
【小学校版】 〈平成22年12月 文部科学省〉
【中学校版】 〈平成23年5月 文部科学省〉
- 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校・各教科）」
〈平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校・各教科）」
〈平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

(1)地域の人材活用と財政的支援

仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用及び特色ある取組について、一層の支援を行う必要がある。

本市教委では平成20年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民を「バックアップチーム」として登録し支援している。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく。

また、平成25年度からは、各校の特色ある「ふるさと教育・キャリア教育を推進する

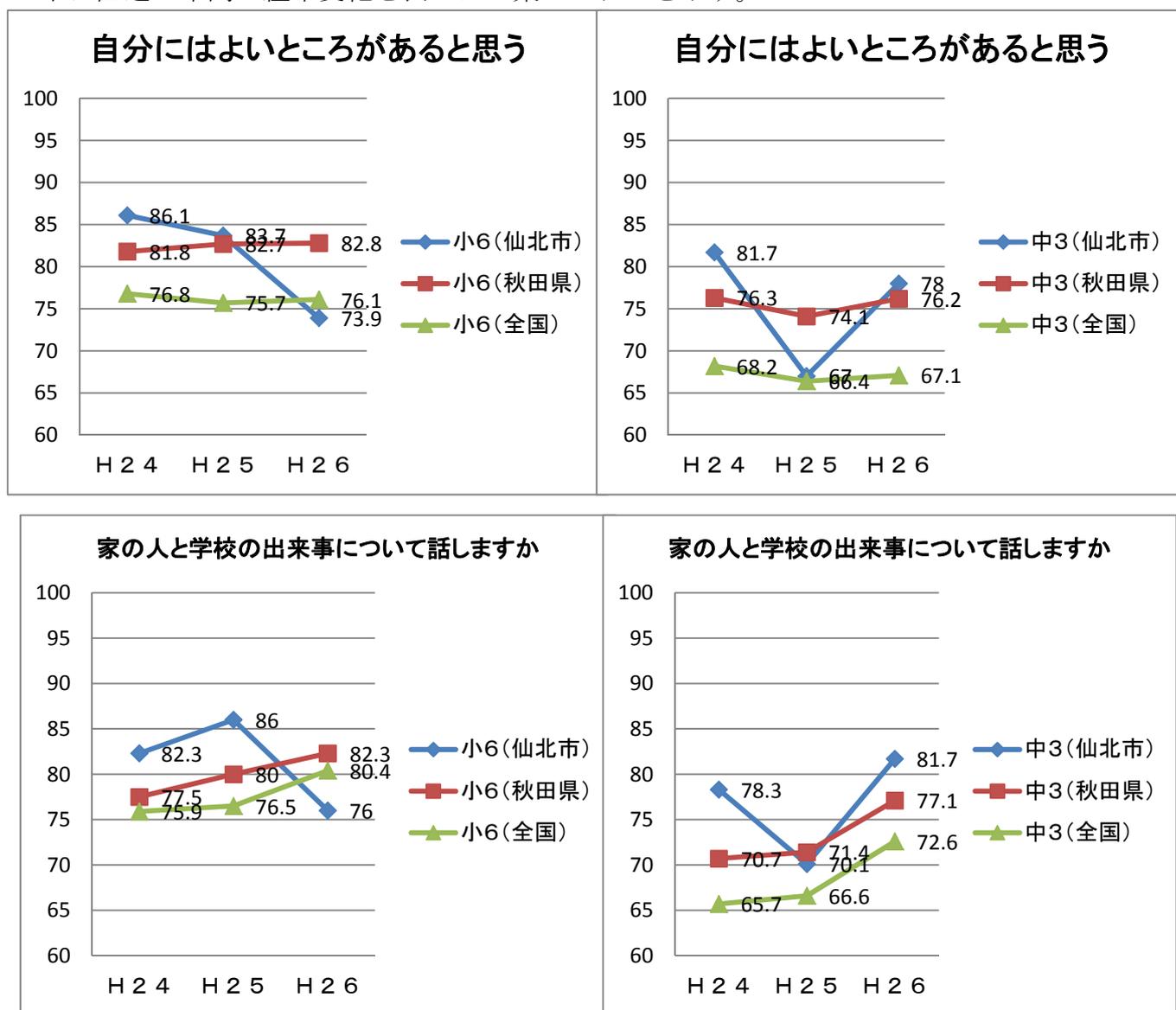
取組」や教材の充実に対し一層の財政的な支援も予定している。平成26年8月には「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育」指導資料として冊子「ふるさと仙北学」を発行、各校に配布し、ふるさと教育を基盤とした取組の充実が児童・生徒の生きる力、地域社会における自己有用感の育成につながるよう働きかけていく。

(2)北浦教育文化研究所研究委員会の充実について

上記Ⅳ-2の各種資料については、各校の研修における活用とともに、研究委員会での研修内容として取り組むことが必要と考える。研究委員会の組織の見直しと併せ、各校の充実した取組に効果のある研究委員会の開催を目指す。

4 学校・家庭・地域の一層の連携

下に直近3年間の経年変化を表した4葉のグラフを示す。



上のグラフは質問紙から「自己有用感」について問われたものであり、下のグラフは「家庭内における児童生徒の会話の状況」について問われたものである（左が児童質問紙によるグラフ、右は生徒質問紙によるグラフ）。

児童・生徒のグラフを各々上下で比較すると、その変化が近似の形を持ったグラフとなっていることが読み取れる。自己有用感を多く感じ取っている児童生徒は、家庭にあっても自己を語る機会を多く持つためか、あるいは、家庭内で学校の出来事が話題となることによって自己有用感が育まれるためか、またはその両方か、その関係性については今後の分析が待たれるが、いずれにしても、自己有用感と家庭内での会話の間には相応の関係があると考えられる。

確かな学力の向上のためには、児童生徒が安心して自己有用感を育める環境が必要であると考える。また、「基本的生活習慣」や「基本的学習習慣」の基盤の上に「学びのサイクルの習慣化」が必要である。「学びのサイクルの習慣化」とは、授業を核として、授業日の家庭学習や長期休業中の学習、学校の始業前や放課後の学習が有機的に結びつけられ、関連し合って児童生徒の学びの機会が習慣化されていくことである。そのためには、学校・家庭・地域が「目標・ねらい」を一つにした一層の連携が必要である。

家庭では子どもの基本的生活習慣や学習習慣などに関心をもち、学校と協力して一層望ましい姿になるよう家庭教育を充実させることが望まれる。これについては、児童・生徒質問紙における「家の人と学校での出来事について話しますか」についての肯定的回答が低い傾向にあったことも踏まえておきたい。放課後におけるスポ少活動や部活動との関係もあるが、児童生徒が就寝までの限られた時間の中で、家族の一員としての役割を果たし、家族とのコミュニケーションを意義あるものにしながらか学習時間を確保できるよう家庭内でも協力していくことが望まれる。

仙北市の子どもたちが地域に対する愛着が深く、地域生活において多くの望ましい傾向がみられることは、地域住民の支えが大きく影響していると考えられる。この点からも、これまで以上に学校・家庭・地域の連携を一層深めることが重要であると考えられる。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日

教育委員会告示第19号

最終改正 平成26年11月教育委員会告示第25号

(目的)

第1条 この要項は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1) 「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2) 「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係につい

ても併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。

- (3)「別表1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (4)「別表1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第4条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第5条 第3条に示す公表の内容及び第4条に示す改善策は、仙北市教育委員会北浦教育文化研究所において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第6条 仙北市情報公開条例第7条6号を根拠として第3条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成19年12月20日から施行する

附則

この告示は、平成26年11月28日から施行する

(別表1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第3条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「*四分位層」…成績の上位から25%のきざみで4つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表2)「(別表1)の1及び2の公表に係る階層区分と表現」(第3条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+5%以下～-5%以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が-6%以下であるもの	改善が必要な状況